

委員の方からの提供資料

第4回猪名川部会資料

「市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点」 レジメ

猪名川部会委員 谷野 剛 (川西自然教室代表)

はじめに

部会長からいただきました課題は「猪名川の環境を巡る諸問題」でございますが、私たちの最近の活動にもとづき、川西市内の県管理区間を対象にお話したく、掲題のタイトルにさせて頂きました。2、3の地域の現状と問題点をお話いたします。国管理区間については関連地区の委員のご高見をお聞かせいただきたいと思います。

ダムに関連して

毎冬、一庫ダムを起点として水鳥をカウントしています。(参照1) 今年ダムではオシドリが見られませんでした。今後の推移を見守りたいと思っています。

ダムに関する問題としては、次の2点をすでに会議で指摘しております。

1. 移入種(魚)についての考え方。
2. 下流の生態系維持のための放流。

私たちは、ダム湖畔の道路急斜面(草付)で陸生のヒメボタル(県RDBの地域限定貴重種)がほそぼそと生息していることも見つけています。道路改良には慎重であってほしいとおもっています。

支流に関連して

私たちは、昨年夏、猪名川本・支流の水質や環境の調査を子供たちと実施しました。(参照2-4) 調査した範囲内では銀橋下流側で流入する「鼓ヶ滝川」の汚染が最もひどかったようです。

比較的きれいで、子供と一緒に入ってみたい川として、私たちは支流学生川(多田大橋上流で本川に合流)に注目しています。近年は毎年6月観察会例会のコースに選定しています。さらに今年は例会の前に、川の中のゴミ拾いをして、ひどい現状を身を持って体験しました。また上流部の不適切な開発行為の影響で、川が死ぬのではないかという意見も出ています。またここは市内有数のゲンジボタル(県RDBの要注目種)生息地でもあります。(参照5-14)

市当局に要望し、なんとか現状を改善できないかと働きかけています。

課題としては(ここに限りませんが)

1. 不法投棄物による汚染への対策。
2. 子供が安心して入れる川の確保。
3. 上流部の道路工事による土砂流入などの防止。
4. ゲンジボタルが生息できる自然環境の維持など。

もっと下流の寺畑前川は小規模な都市河川の典型と思いますが、浸水被害を改善するため、川道を掘り下げ等勾配化する工事が本年度予定されています。昨年の環境調査でここにメダカ(県RDBの要注目種)が生息することがわかりました。

私たちは今年2回、このメダカを捕集し、「メダカの里親」を募っています。工事終了後、復元の課題も残っています。(参照13)

なお、この支流では近年の急斜面地の小規模開発(こまぎれ申請されるため調整池の設置が指導されていない)が、浸水頻発の一因ではないかという意見も多いようである。開発地域は隣接市であり、広域合併の研究会がスタートしている現状では、市の対応は、「日和見」ではないかと思うぐらい動きが鈍い。

まとめにかえて

小さいグループであっても、狭い地域であっても、定点観察をつづけることで環境の変化(悪化)が見えてくる。その情報を行政も共有し、いま有効な対策を考え、実践しなければ、後世の人に申し訳ないのではないかと思います。

本流の話をだす余裕がなくなりましたが、コンニャク橋(本流と塩川の合流地点の直上流)ふきの改修について行動しておられる、関連団体の渡辺さんたちの心配を受け止めていただけるよう願っています。(参照14)

ここでのべたいろいろの問題は、「河川管理者だけでは解決困難」という短絡的な返事が返ってきそうですが、すくなくとも流域協議会等において行政間の共同の課題としてじっくりと取り上げていけるような仕組みづくりと意識改革が望ましいのではないのでしょうか。

第4回猪名川部会用資料

「市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点」の参照資料

猪名川部会委員 春野 剛 (川西自然教室代表)

参照資料目次

題目	頁	原典の号数：(発行日付)
1. 2001年川西市内水鳥一斉調査報告	1	87：(2001. 3. 1)
2. 水質調査下流班：子どもたちの声	3	80：(2000. 8. 1)
3. 猪名川本流支流水質調査結果	4	同上
4. 川の調べ方いろいろ	5	同上
5. こんな近くに親子で遊べる清流があった！	7	92：(2001. 7. 27)
6. 岩から とびおるのが おもしろかった	7	同上
7. 芋生川、静かな中にも異変多々あり	8	同上
8. だれがゴミを投げるんだろう？	9	同上
9. アホになって、芋生川のゴミ拾いをした	10	同上
10. 「川西最後の清流」芋生川があぶない！	11	同上
11. 「川西最後の清流 芋生川」を守るための要望書	13	同上
12. ゲンジボタル発生頭数の推移 (94-2001年)	14	91：(2001. 7. 3)
13. メダカはコンクリート底が嫌い	14	同上
14. 住民の声ははたして反映されるのか？	16	90：(2001. 6. 1)

注：原典は「こげらだより」川西自然教室

2001年川西水鳥一斉調査報告 川の部・全体感想

リーダー 平田 信活

昨年カルガモ36・カワウ6だった一庫ダム(①)は今年、主役がヒドリガモに変わり、カルガモが減った。コンクリートの吹きつけ工事が騒がしく、減少したのではないかと澤山リーダー。

大路次川(②)の東畦野付近、猪名川(⑥)多田桜木、(⑧)滝山付近で河川改修が行なわれており、いずれの箇所でも昨年より数を減らしている。

オンドリの最大のポイントである猪名川の(⑤)の



清和台入口付近のオシドリが昨年の30から8に激減。付近の大規模な宅地造成の影響ではないかと息須川リーダー。

今年は池でマガモが14増、カルガモが14増。しかしオシドリは11減となった。

全体ではガンカモ類は21減。そして今まで最低の8種類。もともと少なかったハシビロガモが0になったのはショック

だ。またオカヨシガモも今年は0。オシドリも34減。しかし、マガモ24増、ヒドリガモ42増と大幅に増加しているのもある。

同時多発の河川改修で川の水がにごり、ドロが付着し、川底の動植物が死に、カモ達の餌が不足しているのではないかと心配

	97	98	99	00	01
マガモ	126	86	56	71	95
ヒドリガモ	201	217	197	211	253
オナガガモ	30	27	22	45	21
ハシビロガモ	15	18	5	8	0
キンクロハジロ	24	21	13	26	16
ホシハジロ	0	0	1	1	3
カルガモ	45	60	53	74	81
コガモ	66	31	2	36	25
オカヨシガモ	13	12	0	17	0
ヨシガモ	0	0	0	0	0
オシドリ	84	14	157	61	27
種別不明のカモ	4	17	33	0	0
種類数	9	9	9	10	8
計 (不明含む)	604 (668)	486 (533)	506 (539)	550	529
※エリカモ	29	147	140	0	1

している。警戒心が強いので工事がいたる所で行なわれると居場所がなくなる。また、竹林やヨシ原等の目隠しになる植物も必要だ。現在行なわれている工事はそれをどんどん奪っている。

川西自然文化会同表

2001年川西市内水鳥一斉調査まとめ

2001.2.10実施
川西市自然教育課

地田番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	池の部(全)	合計	二千年	
圃	長原	一庫	文珠橋	文珠橋	石道	多田大橋	コニヤク橋	コニヤク橋	海山	綿延橋	綿延橋	長原寺川	中園道	市境			
調査日	2/16																
マガモ		6			14	4	8				16	12	2	33	95	71↑	
ヒドリガモ	21	8	4				39	21	19	11	80	25	25		253	211↑	
オナガガモ											18	1	2		21	45↓	
ハンビロガモ															0	8↓	
キンクロハシロ							15							1	16	26↓	
ホシハシロ														3	3	1↑	
カルガモ	3	5	4		2	4		2	2		9	30	3	17	81	74↑	
コガモ							2		5					18	25	36↓	
オカヨシガモ															0	17↓	
ヨシガモ															0	0	
オシドリ			9		8									10	27	61↓	
種別不明のカモ															0	0	
ミコアイサ															0	0	
カワウ	5	1	1	1	1		2	1					2	6	20	8↑	
カイツブリ		1	2		5		2	1		1	1	3	5	3	24	37↓	
カンムリカイツブリ															0	0	
バン												1		3	4	5↓	
オオバン															0	0	
ユリカモメ									1						1	0↑	
カワセミ			2		2	1									5	11↓	
ヤマセミ															0	4↓	
コサギ		9							2		1		2		14	18↑	
チョウサギ		1													1	1	
ダイサギ											1				1	3↓	
アオサギ		3	1	1	1			1			1				8	12↓	
ゴイサギ													1		1	1	
イソシギ		1			1			1							3	13↓	
イカルチドリ								1							1	2↓	
シロチドリ															0	0	
カワガラス		1													1	1	
サグロセキレイ		3			4	2		2		2			1		14	25↓	
ハクビキレイ		2						2	2				1		7	9↓	
キセキレイ		2			1										3	1↑	
その他の野鳥	ヒヨドリ クマガイ イソシロ アオシロ オオシロ ハニマシロ トビ	マガモ オナガ (大群) ヨシガモ コサギ アオサギ アオシロ	ヨシガモ シロチドリ オオシロ ハシロ スズメ アオサギ アオシロ	ツグミ		ツグミ イソシロ	アヒル2 アヒル1					ツグミ ヒヨドリ ドバト	マガモ ヒヨドリ オオシロ ツグミ	マガモ アヒル2 アヒル1		6	1

カワガラス
(4羽)
イソシロ

水質調査を下流河 多田と私の

自然教室のおじさん連と、芋生川から下流の滝山川(前川)まで歩いて水質調査をしました。

芋生川と、多田院のこんにゃく橋(板橋)の下の川は流れが速くて水がきれいでした。そこには横エビやヤゴがいました。

特によざれていると思った川は滝山川です。ドブのような色でにおいはくさかったです。

楽しかったことは、川でお弁当を食べながら魚のたまごさがしをしたことです。でも、そう簡単には見つかりませんでした。

お母さんが子どものころは、よく猪名川で泳いでいたそうです。だんだん泳げる川が少なくなってきました。川にゴミをすてないことだけでなく、どうしたら川をこれ以上よざさないようにできるか考えようと思いました。

大井 創太郎

ペーパーという黄色の紙に水をつけて色がかわるかどうかで水のきれいさをはかってみたら、意外、かんたんでした。芋生川からコンニャク橋まできた。その水はつめたかった。けっこう水もきれいだった。

次に多田神社の橋で水を入れるカップをなげて水をくんだ。そこでぼくはあしろうさんをした。それはさっきとちがって大きい容器にハリで穴をあけて空気をぬいて水をいれた。けっこうむずかしかった。水をいれて10秒ぐらいふると色がむらさきっぽいろになった。測ると0.05だった。

次に銀橋の近くの日かげで実験した。ぼくはアンモニウムをした。まずカッターで小さい方の容器を切って中の葉をフィルムケースの中に入れて10秒ぐらいふって、大きい方の容器に水を入れて1分間ふった。あまり色はかわらなかつた。

本田 和夫



最初ほとどの川もすごくよざれていると思った。だけど芋生川や堀川などのようにきれいな川もあった。そんな川にはトンボや魚、鳥などいろいろな生き物もいた。だからきれいな所だと分かった。

だけどきたない川もあった。西浦川はすごくきたなくてガッカリした。

バックテストは初めてだった。自分にも使えてうれしかった。

西浦川がきたなかつたり、きれいな川にもゴミがういているのは、ぼくたち人のせいだと思う。だからぼくは川をよざさないためにゴミをすてないように心がける。ゴミをすてている人がいたら注意する。

水質調査に参加して水質が分かっただけでなく、自然を大切にしなければいけないということも分かった。

青木 祥晃

猪名川本支流 水質調査結果

2000.7.9 実施
川西自然教室

上流部 H12.7.9 晴れ 調査者：溝口・湯山・足立・嶋崎・山家

場所・項目 単位	時間・分	気温 ℃	水温 ℃	PH	電気伝導度 μ S/cm	硝酸 ppm	亜硝酸 ppm	アンモニア ppm	全硬度 ppm	COD ppm	透視度 cm
柳谷川	10:10	29.0	22	6.8	102	1.0	0.02	0.0	50	2	
多田取水口	10:25	28.0	22	6.4	72	1.5	0.05	0.1	40	5	
野尻川	11:24	30.0	24	7.6	117	1.0	0.05	0.2	50	5	
石道・猪名川	11:08	29.5	26	7.4	101	1.0	0.01	0.1	70	10	
ゴルフ橋猪名川	10:42	27.6	24	6.7	107	1.0	0.01	0.2	50	5	
ゴルフ橋一庫川	10:50	27.8	23	7.0	63	2.0	0.05	0.1	40	5	
北谷川	11:57	32.0	28	7.8	97	4.0	0.07	0.3	60	30	
初谷川	12:20	35.0	24	6.8	85	3.0	0.04	0.2	50	5	
大路次川(堰)	12:45	33.0	26	6.8	59	4.0	0.04	0.2	30	20	
一庫ダム下	13:15	33.0	22	6.4	59	2.0	0.10	0.1	20	5	
妙見川キャンプ場	13:55	36.0	27	7.0	80	1.0	0.01	0.2	30	5	
野間川	14:13	35.0	27	7.0	95	1.0	0.01	0.2	100	18	
田尻川	14:45	33.0	26	6.8	89	1.0	0.01	0.2	50	7	
大路次川	15:05	32.5	24	6.2	72	1.5	0.02	0.2	40	4	

調査者(子供): 岩見(2名)・中村・本田・青木・大井

下流部 H12.7.9 晴れ (大人): 釜野・釜野・望月・井上・市原・渡辺・吉野・萩原・中本

場所・項目 単位	時間・分	気温 ℃	水温 ℃	PH	電気伝導度 μ S/cm	硝酸 ppm	亜硝酸 ppm	アンモニア ppm	全硬度 ppm	COD ppm	透視度 cm
芋生川	9:25	30.0	22.0	7.0	165	1.0	0.02	0.1	20	5	35
多田神社前	10:45	29.3	22.5	6.8	193	2.0	0.05	0.1	100	5	35
矢間川	11:15	29.5	23.5	7.0	240	2.0	0.02	0.1	100	5	35
塩川	11:30	29.5	24.0	7.4	78	1.0	0.02	0.1	200	10	35
西浦川	12:00	31.7	25.5	7.5	300	1.0	0.10	0.1	50	10	35
鼓ヶ滝川	13:00	27.5	27.0	7.8	310	5.0	0.40	0.2	70	50	32
銀橋水質調査所	13:05	27.5	25.0	7.0	166	1.0	0.05	0.1	50	10	35
久安寺川	13:45	33.0	27.0	7.3	230	1.0	0.02	0.1	50	20	35
古江取水口(右岸)	14:10	34.1	25.0	6.8	170	1.0	0.02	0.1	50	10	35
滝山川	14:20	33.0	28.5	7.8	230	1.0	0.05	0.3	50	20	35
最明寺川	7:50		23.0	6.8	192	1.0	0.02	0.1	50	5	
猪名川・最明寺合流点	7:55		23.0	7.0	220	2.0	0.02	0.1	70	10	

《特記事項》

- 芋生川付近 カワセミ
- 矢間川付近 コシアキトンボ、セグロセキレイ、^アミシシッピーカミミガメ、サカマキガイ
- 塩川付近 カワムツの稚魚、ヨシノボリ
- 西浦川付近 大コイ、カルガモ
- 鼓ヶ滝川 臭気あり
- 久安寺川 (工事ほぼ完了) イサギ、カワラヒワ、カワムツ稚魚、セグロセキレイ、コイ(30~40cm)30匹
- 多田神社前 流速 16s/10m
- 流れ橋 流速 10s/10m

川の調べ方いろいろ

猪名川本流支流水管調査によせて

リーダー

畚野 剛

川西市市内を貫流する猪名川は、本来我々にとって母なる川と言うべき存在である。しかし現実には、多くの市民は生活の忙しさなどにかまけて、川のことなど忘れてしまっている。子どもたちも、貴重な少年期から、早くも受験中心、出世主義のスケジュールに組み込まれてしまい、川で遊ぶと言う体験から遠ざけられている。このようなとき当教室が市内を中心とする猪名川の本支流の川の現況を、子供達もお誘いして調べることにしたのは、この行事をきっかけとして、市民に少しでも川への関心を高めてもらえたらという願いからであった。

幸いに、中本リーダーが大阪自然環境保全協会の仲間と、猪名川下流で去年一年間水質調査をやってくれた。この経験を生かして、今回の調査も同じ方法を用いて指導にあたっていただいた。その成果の詳しいことは中本さんの報告の方を見ていただくとして、これは要するに、「簡便法」ではあるが、物理的・化学的方法を駆使して、水質を精細な数値として把握し、川の状態を判定するやりかたである。「簡便法」による環境測定の一つの意義は、NO₂測定運動の例を見れば明らかで、これにより環境測定を「官」の独占から市民の手に取り戻そうという所にある。

しかしこの方法は、いくつかの難点を含んでいる事にも注意していただきたい。

1. 「精細な数値」というマジックにかかり、数値化してそれで安心してしまっていないか。その意味付けまで踏み込まねばならないとすれば、かなりの分析と総合を行う力を持たねば、「官」がわの専門家から、素人の遊びとして、あなどられるだけではないか？

2. 測定法が必ずしもフィールド向きの安定性、信頼性をもっていないのではないか？例えばPHを試験紙で行うのは私は不適當と思う。なぜならば試験紙自体の緩衝性がサンプル（川の水）の緩衝性を上回っているから正確な値が出にくいからである。ほかに安価な方法がない点苦しいとは思いますが…

3. 簡便とは言いながら、かなりの経費（バ



ックテストの場合、一反応あたり百数十円)がかかり、また、試薬の危険性も考えれば、市民向き、子供向きとは言いにくいのではないか？

と言うことで、私は次のような方法で、お互いに補完しながら進めるのがよいのではないかと思う。その方法とは、例えば日本自然保護協会が今年実施しているような、総合的、直感的な判定法である。この方法によれば、少なくとも、上に述べた様な難点の多くは克服できるのである。

また物理的・科学的方法の数値は測定の瞬間の値であり、その川の成分が時間的に動きが激しい場合1回だけの測定値では代表値として取り扱うのは問題がある。これと対照的に、鳥や水生動物のようすを見ることは、その地点で、それらの生物と川との係わりの総体を写し出していると考えて良い。このような両法の性質の違いを十分認識して結果を解釈しなければならない。

総合的方法と、その結果は具体的には別表で示すが、要するに、調査地点の川べりに立って、全体の様子をみることから入って行くスタイルである。もって生まれた五感と、少々の観察力があれば、あとは何も要らないのがうれしいところである。ただし、この方法でも、まとめは点数（自然度といってよいのか？）であらわすことと成っていて、これは全国的傾向を取りまとめたいから仕方がない事だろうか？と迷ってしまう面もある。その地点で、良くして行くための何らかの対策を考える為には、もとの具体的な「ようす」のそれぞれ（たとえば護岸のようす）に戻って考えることがのぞまれる。

別表の数値判定は、行事当日上流側は澤山リーダー、下流側は私が試みたものである。

この方法も、いざ現地で使ってみると、状況が入り組んでいて必ずしもすっきりと判定しにくい場合もあり、エイヤツで書き込んだ所もあったことを正直に言って置こう。

今回は正式プログラムに取り入れる時間的余裕がなかったため、物理的・化学的方法とき

っちりに対応するところまで行かなかったし、一部のかなりきれいなポイントでしかデータとりが出来なかったことが残念であるが、これからの調査では両方の方法の長所を取り入れたマニュアルを創り上げていってはどうであろうかと思うのである。

猪名川水系の川しらべ 2000.7.9 日本自然保護協会の方法によるまとめ

川西自然教室

A. 調査地点 順序は上流から下流へ

地点1: 大略次川	大阪府能勢町平通付近	
地点2: 一庫大略次川	兵庫県川西市西畦野	文殊橋付近
地点3: 芋生川	兵庫県川西市多田院西	芋生橋上流側
地点4: 猪名川本流	兵庫県川西市多田院2丁目	こんにやく板橋

B. 結果

調査の項目 (一部略記あり)	配点	地点1	地点2	地点3	地点4
1. 川のまわりのようす					
・まわりは草原・ヨシ原・田畑。人家少。(3)	(3)	3			
・田畑と人家がまざっている。(2)	(2)		2	2	2
・川のすぐ近くまで人家がきている。(1)	(1)				
・人家や工場が密集している。(0)	(0)				
2. 土手と川のあいだのようす (植生や土地の利用)					
・流れのそばや河川敷に林がある。利用微小。(3)	(3)	3		3	
・自然の草原多い。ゴルフ場などの利用<1/3 (2)	(2)		2		2
・草原まばら。公園・ゴルフ場などが1/3以上 (1)	(1)				
・ほとんどが公園ゴルフ場や砂利取り・工事中 (0)	(0)				
3. 流れのようす					
・蛇行。中州に池あり。下流では広いヨシ原。(3)	(3)	3			
・河原の中蛇行。池少ない。淵や瀬がある。(2)	(2)		2		
・砂・石のたまりの上に草原あり。殆ど直流。(1)	(1)			1	1
・砂・石のたまり場なく、排水路のような流れ (0)	(0)				
4. 水きわと川底のようす					
・石や砂が自然のまま。水際は自然の植生、がけ (3)	(3)	3			
・自然石積 (植物がおおう)。川底自然に近い。(2)	(2)		2	2	2
・水際はコンクリート。川底はそうではない。(1)	(1)				
・水際・川底ともにコンクリート固め。(0)	(0)				
5. 水のごと					
・澄んでいて飲めそう。わかニ、かぐら、かぐりなど (3)	(3)	3	3	3	3
・わりときれいな水。ヒラト、カワニナなど (2)	(2)				
・やや濁っていて、ミ、モノアラガイなど (1)	(1)				
・非常に濁っていて、底は黒い泥。カマカイなど (0)	(0)				
6. 川の鳥のようす					
・川のどの場所にも何種類もの野鳥のすがた。(3)	(3)	3	3	3	3
・サギ、カモメ、ツバメ、カルガモ、ヒバリなど (2)	(2)				
・公園でも見かけられる鳥 (カマモ、ムトリなど) (3)	(3)				
・カラスやドバトしか見られない。(0)	(0)				
配点調整					
・汚れをうすめるわき水。(+ 2)	(+2)				
・背丈よりかなり高いダムで生き物の通妨げ (- 3)	(-3)				
・上より低いダムやせきがある。(- 1)	(-1)			-1	
合計点数		18	14	13	13

総合評価点	講	評	地 点
15 - 20	すばらしい川です。利用を考える時も自然を残すことを先決に。		1
9 - 14	まだ自然が残っています。これ以上自然が失われないよう注意。		2 - 4
3 - 8	かなり自然が壊されて居ます。回復の方法を考えていきましょう。		
-3 - 2	危険な状況です。少しでも自然を取り戻す努力をしましょう。		

7月14日
芋生川例会

こんなに近くに親子で遊べる清流があった!

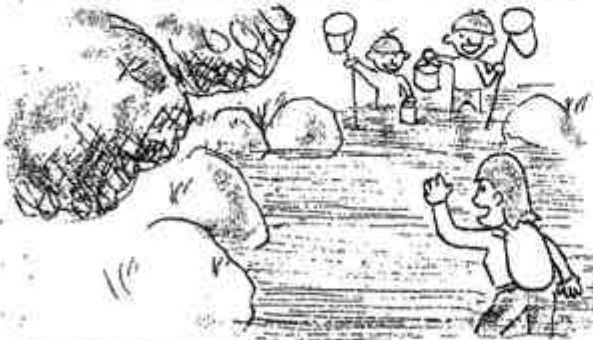
向陽台
甲本つね子

川西自然教室に参加させていただいたのは春の「野草を食べる会」以来2度目です。

「芋生川」の名前も場所も知らなかったのですが、意外なことに私の住んでいるグリーンハイツの目と鼻の先ではありませんか。こんなに近くに、子連れで楽しめる場所があったなんて。

川に入って、ところどころ腰まで水につかりながら上流へと進むうちに、ひんやりとした川風が心地良く、まさに天然のクーラーと言った感じでした。

一見、澄みきった川には、カワムツという魚がいっぱい、悠々と泳いでいて、「わあ!きれいな川!」と感激しましたが、聞くところによると、一週間前に会



岩からとびおりののがおもしろかった 陽明小3年 甲本ゆう太郎

きょう、ジャコとりに行ってすごくたのしかったです。魚もいっぱいとれたし、およいだりしておもしろかったです。とくに岩からとびおりのたきのとこ

貝の方々が清掃してくださったとか。家庭から出た生ゴミから畳、エアコンなど様々なゴミが投げ込まれていたと聞き、会員の方々の雄志に頭の下がる思いがいたしました。と同時に、ゴミ箱代わりに平気で投棄する心ない人々に憤りを感じてしまいます。

実際に川の中を歩いていて、プラスチックトレイ・ビニール袋・フライパン・ペンキの入った缶・車のバッテリーetc. 実にいろいろな物を見つけました。

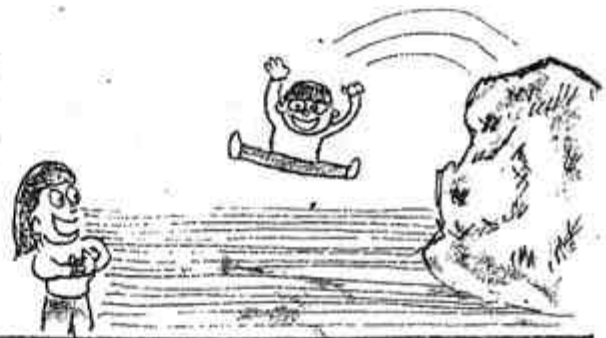
ゲンジボタルが生息する清流・芋生川、サワガニヤドンコ・カワムツ・ヤゴ・スジエビ達がいっまでも絶えることなく住める環境、そして子ども達が安心して川あそびのできる自然を残してやりたいとつくづく思いました。

最後になりましたが、本日は子ども達同様、私自身も童心にかえった思いで楽しませていただき、本当にありがとうございました。

ろにおちるのがすごくすごくおもしろかったです。

ぼくは魚を8ひきとりました。でもそのうちの5ひきぐらいを小川さんと

平田さんに とってもらいました。小川
さんは 手づかみで、平田さんは あの
大きなあみで とってもらって、それを
ちょっとだけもらいました。



芋生川、静かな中にも 異変多々あり リーダー 畚野 剛

毎年この時期、芋生川ぞいを歩いている
故、見えてきたことですが、この「自然教
室推薦 川西の数少ない清流」にも、数々
の黒い影が忍び寄ってきました。

汚い水じゃないだろうか？

集合待ちの間、視るともなしに見えてし
まった！ 芋生橋付近、上流側の右岸から
間歇的に、しかし、かなり頻繁に、汚水が
放流されていました。浄化槽の上澄みでし
ょうか？ その水質が心配です。皮肉なこ
とですが、その付近に魚が寄ってくるよう
です。栄養分のリサイクルが成り立ってい
るという見方もあるのですが…

子供の姿が見えない

下調べの日(6月24日、日曜日)には、川
遊びや虫取り目当ての親子連れを何組も
見かけました。今回は、例会に参加くださ
った 家族をのぞいて、その姿なしでした。
当日は梅雨明け宣言された日で、気温も高
かったせいかもしれません。私は、子供時
代の川遊びは、このごろ流行の、観念的で
空疎な「環境教育」では決して得られない
実体験だと思者です。

Iさんの愉快的体験談。

芋生の棚田のすぐ上の、丘陵斜面では、
一箇所だけですが、今年もホタルブクロの
群生がありました。そのあと野菜直売スタ
ンドを通り、熊野神社まで行き、社の木陰
で小休止しました。山車小屋(?)の下が、き

れいな砂地で、アリジゴクの巣がいっぱい。
Iさん曰く、「子供のころ、アリジゴクを掘
り出して遊んだ。アリジゴクは前に進ま
んと、後ずさりするのや!」。町中育ちで、
トンボ以外はあまりなじみがなかった私
にはうらやましい話でした。

秘密の小道をたどる

このあたりは、中本リーダーの縄張り
です。彼の案内で、車道を避けて、右の谷に
入りました。少し行って、左へ上がります
と、小さな峠。その向こうにはケヤキ坂団
地の薨の波と奥の市立霊園が見えました。
教室の会員も、こういう団地に住む人が多
いので、「偉そうなことは言えるのか」と
いう声が聞こえるのですが、私は、「もう
これ以上山の緑を削って、環境を破壊する
ことは止めようではないか」と主張します。
植木畑や隠し田がある左の道を、気をつ
けて通してもらいましたが、「心の癒し、
小さな秘境」の思いがしました。

きれいなのは中流だけ！

今回の最終到達点は、若宮の延命地藏さ
ん。こじんまりしたお堂で、小さな仏様で
すが、きれいな御衣裳でした。村の中の芋
生川は3面張りでした。

あとで、あるリーダーから聞いた話で
すが、「ここから上流はもっとひどい状態に
成り果てている」とのことです。立派な道
路ができたため